月５社会行動論：村田光二

※試験について先生はまだあまり言及しておりませんので各自授業に参加し確認してください

日付：7／２８　１７時～18時

持ち込み：不明

参考　成績評価について（初回授業より）

・出席点(30％)

a.授業内での質問紙研究等への参加

b.時間外の実験室研究への参加、または小レポート（読書感想文）の提出

・テスト(70%)

8割程度が選択式、残りが記述式の予定

　※このシケプリにおいては多くの実験が省略されており、その実験結果だけが記してあることが多いです。

　　実験内容について詳しく知りたい人は授業中に配布されたレジュメや板書のノートがありますので各自私に要請してください。

　※その他何かあれば連絡してください　小泉：***el-condor-pasa-yuki@hotmail.co.jp***

もくじ

１．社会心理学とは何か

２．社会的認知

２－１．社会的環境の認知

２－２．社会的スキーマとその働き

３．社会的影響

３－１．同調と服従

３－２．要請技法と応諾

１．社会心理学とは何か

（１）心理学の外史

　　①**意識の科学**byヴント(19c)…特定条件下の意識を内観によって観察

　環境・刺激　　→　　　心　　言語報告

→内観（被験者が自分で自分の心を見ること）

**→ただし、これは*きわめて主観的！***

様々な批判

　　　・**意識主義批判・・・精神分析byフロイト**→「無意識」の働きに注目せよ・「意識は氷山の一角であり、無意識は意識が弱まる（夢や精神病）ときに現れる」←ただし、一般性は低い・・・・・

・**要素主義批判・・・ゲシュタルト心理学**→心理現象は個別要素の和以上のものである

e.g.) 『可視運動』←文字が流れる電光掲示板は、現実にはただのたくさんの電球がついたり消えたりしているだけ

②**行動の科学**(20c始め)

　　 ・**主観主義批判・・・行動主義byワトソン**→内観をやめ、誰にでもわかる（＝観察可能である）客観的現象の調査を行うべきである

→観察可能な環境・刺激と反応だけを実験者が客観的に観察する一方、心は一種の『ブラックボックス』と考えて深く考察しないことで、科学としての精度を高める

　環境・刺激　　→　　心？　　→　　反応

刺激と反応の関係を調べる

↓

これを『行動主義（ＳＲ主義）』という

e.g.) ATMと一般人の関係

Ｂehavior ＝ f( Ｅnvironment )

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　↓

　　　　　　　　　　主観的対象（意識、心）は付随減少と考えるので、『心のない心理学』と批判を受ける

さらなる批判

**・個人差（主体的要因）への配慮・・・レヴィンの式**→Ｂehavior = f( Ｐersonality, Ｅnvironment )

**・新行動主義（ＳＯＲ主義）・・・媒介過程としての心**→心を（環境）刺激と反応との媒介と考え、両者の関係性の整合性に基づいて心を考える

　　③**心のはたらきの科学(B**ehavior **= F**(**P**ersonality, **E**nvironment)**)**

(fからＦになり、より関数としての心を重視している)

刺激に対する反応には個人差があり、それはそのまま「心」の個人差に帰着する。

　　　　　「心の働きの科学」（情報処理過程としての心の復権）

→『物理的には観察不可能でもその過程を記述することはできる』と考え、『人間の心は意識的処理と

非意識的処理を行う』と考える。そして、『心が環境・刺激を認知する』と考える。

（２）社会的場面での心の働き

・キティー・ジェノベーゼ事件…殺人事件が起こり、38人の傍観耳撃者がいたにもかかわらず誰も通報せず

　　　→なぜか？

→評論家たちは『**都会人は冷淡で他人に無関心だから**』と解釈した。

→ダーリーとラタネの実験…人数の多少が問題ではないかと考えた。

**人数が多い→責任感の分散→通報しない**

　　　→実験を行ったところ、やはり、人数が多い環境ほど、行動に移る人数は少なくなり、行動に移るまでの時間は長くなった。しかし、行動しなかった人も、相手を心配し、心の葛藤が認められ、決して冷淡や無関心ではなかったと考えられた。

　　　＜考察＞

　　　・**『責任感の拡散』が生じることによって援助が抑制されたのであろう。**

　　　・「都会人」の問題ではなく、**「都会」という環境の問題**として考えられる。

　　　・**「人数が多い」と認知された環境が重要**であると考えられる。

２－１．社会的環境の認知

認知（cognition）

昔：知覚＝認知

現在：知覚＋記憶＋思考＝認知

　→（広義）感情等も含めた情報処理活動

（１）認知の2つの規定因

　①**感覚情報**

　②**認知主体の内的要因**（認知的要因、感情的・動機づけ的要因）

　　e.g.) １．文脈に応じた文字認知　　　　　２．錯視

　　　　 ３．立体視　　　　　　　　　　　　　　　４．コインの大きさの知覚(大人より子供のほうが硬貨を小さく知覚する)

　　①に基づく認知…**受動的**（刺激駆動性情報処理、ボトムアップ型情報処理）

　　②に基づく認知…**能動的**（概念駆動型情報処理、トップダウン型情報処理）

　　　　　　　　　　　　　　　＊アタマで考えたことが全身に伝わるから「トップダウン」と呼ばれているらしい。

　　「正確」な認知→適応的な認知

　　　　　　　　　　　　　　→**その環境における適応的な行動を生み出すのに役立つよう認知する。**

（２）枠組み的知識（**スキーマ**）の重要性

　スキーマ…種々の対象を理解するときに用いる枠組み

　＜特徴＞

**・基本構造とバリエーションがある**

**・階層構造の中に位置づけられる**（Eｘ.東大生スキーマ→文系スキーマ→法学部スキーマ）

**・経験を通じて会得され、その後変化してゆく**

**・理解を生む、しかし、誤解も生む**

e.g.)　コロンブスの「インド」スキーマ

（３）認知の社会的成立

　○文化と認知

・文化が異なると同じ物理的対象を異なって認知することがある

　　　（例）雪・虹の色・動物の鳴き声

　　・**認知は１つの文化内ではかなり一致している**

　　　◇シェリフの自動運動に関する実験

　　　　＜考察＞

　　　　　・**集団条件では判断の準拠枠が形成され集団成員に共有されたのだろう**

　　　　　・**判断の準拠枠が集団成員の態度や行動の基準となれば「集団規範」である**

　　　　　◎**これは社会的現実の成立を示しているのだろう**

（４）社会的対象と物理的対象

・社会的対象…人にかかわる対象→**対象の特徴決定の際社会的合意必要**　 cf) やさしさ⇔身長

＜対人認知の特質＞

①**原因主体として対象を認知する**　→意志や意図を持ち行動を起こす

②**ある条件におかれないと発言しない内的特徴があると認知する**

→その者の内的要因(性格や能力)に原因帰属させる…**傾向性**の推論

→**社会的スキーマのはたらきが重要**

③**対象を自己と類似したものとして認知する**　　→自己認知と対人認知には深い関連がある

④**認知者は対象と力動的相互干渉を営む可能性がある**

→観察することによって対象を変えることがある

・**認知的不協和理論**…人は認知要素間の一貫性・整合性を求める。**非一貫の状態は不快であって、解決への圧力**

**がはたらく。**その結果、認知態度あるいは行動の変化が予測される。

Ex.単純な仕事は賃金が少ないほうが面白く感じる

・認知のバランス理論…三者関係を＋、－で考える　　　バランス…３つの積が＋

？

？

　？

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　インバランス…3つの積が－

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　○意見が一致する人を好きになりやすい

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　○自分をほめてくれる人を好きになりやすい

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　＊自尊心の低い人はけなす人を好きになる！！

２－２．社会的スキーマとその働き

（１）社会的スキーマとは何か？

　　　　→社会的対象に関するスキーマ

**☆人カテゴリースキーマ**（ステレオタイプ）…人種、国籍、性別等々

あるカテゴリーに属する人に関するスキーマ→あるカテゴリーに属する人が持つ特性(傾向性)に関するスキーマ

**☆社会的事象に関するスキーマ** e.g.)自民党といえば？

○スクリプト→行動の連鎖に関するスキーマ

**☆認知の枠組みとしてはたらく知識が『スキーマ』**

（２）ステレオタイプ…あるカテゴリーに属する人々が共通してもつ（可能性が高い）特徴に関する知識で、主に『カテゴリーラベル＋特徴』

①幾分妥当な場合もある。ただし、傾向性は分布している！

　　　　　　　　　　　　　 →単純化　「まあ、だいたい…」「多くの人が…」　**認知の経済性、認知的倹約化**

②かなり不当なケースもある。

e.g.) 「女は依存的である」…その行動の生じる社会的環境（男女の社会的勢力関係）の影響を考慮しないことが問題

　　　　　　　　　　　　　　　　　そう認識することによって現実（の勢力関係）を固定化する可能性がある

**☆ステレオタイプ＋（否定的）感情＝偏見→差別行動**

e.g.) ディオンたちの実験→外見と人柄とを結びつけるスキーマがあるのだろう

　　　　　　　　　　　両面価値的ステレオタイプ→同じ対象をポジティブにもネガティブにも評価すること（例えば、『東大生は頭は良いが、性格は悪い。』）

（３）社会的スキーマの働き

①認知や記憶に及ぼす影響

　　・**人間はスキーマにそって対象を認知したり記憶したりする傾向がある**

e.g.) ダンカンの実験→「黒人は攻撃的である」というステレオタイプを通じて、あいまいな行動が認知されたのだろう

　　　　ロフタスとパーマーの実験→「元の情報」＋「スキーマに基づく情報」＝エピソードの再構成

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　→記憶を想起する段階でもスキーマが影響するのだろう

②ステレオタイプ化

　→・ステレオタイプを特定の人にあてはめること、あるいは特定の人をステレオ

タイプを利用して認知すること、前提として**ステレオタイプの活性化が必要！！**

ステレオタイプの存在→ステレオタイプの活性化→対象のステレオタイプ化　の順

**∴ステレオタイプを持つことと活性化して使うこととは異なる！**（つまり、ステレオタイプ以上の知識を持っていれば、ステレオタイプは利用されない）

では、どうすれば活性化されるのか？

　・ダーリーとグロスの実験…**ステレオタイプ化は、期待（ステレオタイプ）のみではなく、**

**対象の実際の行動データを把握できて初めて行われるのだろう**

**選択的情報処理（同じ行動データなのに、各々のステレオタイプに沿う情報にのみ無意識のうちに重点を置くこと）をしたのだろう**

cf) ドクタースミス問題→ジェンダースキーマと職業スキーマの問題、自動的処理と意識的処理の問題

（４）人カテゴリースキーマの形成

①**外集団に対する見方から発生**…有史以前の問題

　　対内集団成員…　　　好意的　　　個性・多様性のある個人として認知

　　対外集団成員…　　　非好意的　　同質的・集団全体として認知

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　↑

このスキーマには、『内集団ひいき』と『外集団同質性効果』が働いている

②**内集団成員の役割から発生**…ジェンダー、職業、年齢等

③**認知的基礎**…カテゴリーと特徴との(誤った)関連付け

　　　　　　　　Ex.　ハミルトンとギフォードの実験→数が少なく目立ちやすいもの同士が結び付けられた。

④**社会化の過程で発生**…親、親族、友人、メディアの影響等

３－１．同調と服従

・同調・・・他者や集団の設定する期待や基準に沿って行動することに基づいてある行動を取ること

**他者や集団からの直接の指示や働き掛けはない**

・服従・・・権威者からの命令や指示に従うこと（応諾の一つ）

**意図的で強い働きかけに基づく「同調」ともいえる**

**★社会的規範…個人を超えた影響力を持つ**　　←判断が集団全員に共有された結果！

（１）集団規範への同調…社会的勢力関係も関与

　　　　　斉一性への圧力を持つ→**規範の維持**⇔必ず裏切り者が存在する

　　　　　Ex.アッシュの実験…正解が明確な問において、被験者はサクラに同調し、誤答した。

☆同調を規定する要因

**・集団の凝縮性（集団のまとまりの強さ）**・・・凝集性が高いと同調しやすい

**・斉一的に反応する人数**…1人～3人までは人数とともに同調傾向も増加、それ以上の人数増加は無意味

**・全員の一致の有無**・・・一人でも同調しない他者がいると同調は大きく減る

**・事前の自己決定の有無**

**・匿名状況の有無**

**・集団目標の有無**

**（下の３つはドウチェとジェラードの実験による）**

（２）同調への心理的過程

①表面的服従…自身の信念、態度は無視して、表面上だけ集団圧力に従う。

　　　　　　　　←**集団から報酬を得たい、さらには罰を逃れたいという動機づけ**

**集団に受容されたい、拒否されたくない動機付け**

　でも、この状態は**行動と態度の不一致**である。ゆえに、行動を正当化できる場合は不一致のままでいるが、行動が正当化できない場合は最終的には　**行動と態度の一致**　がおこる　（認知的不協和理論に基づいて不快感の解消への圧力がかかり、態度を変えてしまう傾向にある）

②私的受容…信念や態度まで集団圧力によって変化

**①と②との区別は、同調しなくても集団から拒否されない場面で態度や行動を調べれば、できる**

②(A)内面化→集団規範に価値を見出し、自分の信念や態度とする

　　　　　　　　　　　　→集団圧力が取り去られた後も同調行動は持続する

　　　　②(Ｂ)同一視→集団の特定のメンバーに憧れを感じ、その人の真似をして同調する

☆情報的影響…**集団圧力がない場合でも、比較的客観的情報によって集団や他者から影響を受ける**（背後には「正しく判断したい」という動機づけがある）

（３）集団規範からの逸脱と少数者の影響

・シャクターの実験

**○斉一性への圧力→拒絶→排斥**

しかし！！

　　・モスコビッシーの実験

**○一貫した態度を取る少数派からは多数派も影響を受けることがある**

**○規範からの逸脱は、イノベーション（革新）の開始でもある**

（４）権威への服従･

・服従も意図的で強い働きかけに基づく一種の同調である

・自分の人間性、信念に反する行動を取らざるを得ないこともある。(←反対し罰せられるのが怖い！！)

e.g.)ミルグラムの実験

なぜ人はこのような服従を示すのか？

**①権威者の代理人として振舞う心理状態**→権威者に責任があるのであって、自分には責任ないもんね～

**②状況の意味の再定義**→何かの理由をでっちあげ、「オレがやっていることは正しいのだ！」と言い聞かせる

**③情報の取捨選択**→権威者からの情報だけを取得、あとは無視する

☆ナチス（ヒトラー）の命令によるユダヤ人虐殺に関する社会心理学的問題を追及した研究は『悪の平凡さ』を示した、つまり、『特別な人でなくとも、特定の状況下では人を容赦なく傷つける』ということ

　←実験研究の倫理問題を引き起こし、多くの議論を呼んだ研究。